

2021年度 自己点検・評価報告書

青森明の星短期大学

■目次

①保育専攻	03
②コミュニティ福祉専攻	04
③教育支援部	05
④教育事業部	06
⑤学生支援部	07
⑥入試広報センター	08
⑦キャリア支援センター	09
⑧地域連携センター	10
⑨総務課	11
⑩教務課	12
⑪学生課	13
⑫図書館	14
⑬明の星学園生涯学習センター	15
⑭青森明の星短期大学国際交流センター	16

2021年度 自己点検・評価報告書

部署名 ①保育専攻

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 教育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による学内実習等の計画と実施 ・学内・外におけるFD・SDの活用 ・表現研究発表会の在り方、内容の見直し ・保育実践演習（下北合同）の発表会の方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・IBの学内実習に関しては、保養協東北ブロックによる学内実習コンテンツを使用し、模擬保育等経験の補完に努めた。 ・保養協全国大会等の研修内容および保育士養成校倫理綱領等の専攻内での研修会を実施した。 ・コロナ禍により対面での発表会を中止し、発表のDVDを製作し、保育専攻のYouTubeで公開する予定であったが、撮影時期にコロナ感染による休校措置等となり実施できなかった。 ・コロナ禍により保育実践演習の合同発表会は中止し、課題の提出とした。各チューター(下北は対面)で締め括りを行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの感染拡大は猛威を振るっており、次年度も学内実習も含めた対応の継続が課題。 ・保育者養成校の教員に求められる課題を共有し、引き続き研修会等への参加を呼び掛ける。 ・表現研究発表会については、今後はホールに集めて行う形ではなく、現場に向いて小グループでの発表を行う方向で検討していく。 ・保育実践演習の合同発表会については、今年度検証した方法で引き続き検討していく。
2. 学生支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・卒後支援の方法と具体策を検討していく。 ・幼児体育指導者資格及びおもちゃインストラクター資格取得に関する各研修会の再調整。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会の代替アンケート調査により、現場のニーズについて調査を行った。集計等に学生ワークスタディ等を活用。 ・コロナ禍で、度重なる日程及び実施方法の変更・調整に迫られた。1・2年生とも参加が可能な日程の調整を配慮した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・現場の意見を集約し、卒後支援の方法等について引き続き検討及び実施していく。 ・各研修会の実施日程を前期に移した。
3. 研究・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士養成に関する研究活動の推進 ・保育・教育等に関わる学生の地域貢献活動 ・青森県内保育現場との意見交換会の実施 ・地域イベント等の参画及び参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・東北ブロック研究会でのキャリア支援シンポジストを担い、現場や他の養成校との情報共有や提供を行った。 ・有志学生たちによるヴィーナス・プロジェクト活動（保育現場との遠隔による保育実践）を展開した。 ・青森県全ての園にアンケートを実施し本学への意見を聴取。 ・カラフルリボンイベント（青森市男女共同参画プラザ「カダール」）での学生を伴う親子参加ワークショップ活動。 ・有志学生による「親子で楽しむクリスマスイベント」での企画・発表（青森県子ども家庭支援センター） 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、保育士養成関連の研修会等への参加を促し、情報の共有を図る。 ・次年度も引き続き、学生の教育活動に有意義な地域活動を継続していくことが課題。 ・結果を集約し、具体的な改善に繋げる ・学生参加型の地域のイベント等への参画及び参加を継続していく。
4. 学生募集・広報	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携事業の充実 ・専攻に関する広報の強化方法と具体策 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、商業・中央高校との高大連携事業が中止。 ・保育専攻の活動に関するニュースリリース（新聞掲載3件、報道2件他）。YouTube「あけたん保育チャンネル」のコンテンツ170の動画をアップし、学生の活動や保育の魅力を発信。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育事業部と連携し、募集につながる高大連携の促進が課題。 ・次年度も引き続き、更新頻度を上げ、コンテンツの内容の更なる充実を図る。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

卒後支援の在り方・方法について、具体的に検討及び実施していくことが次年度の重点課題である。

2021年度 自己点検・評価報告書

部署名 ②コミュニティ福祉専攻

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
ビジネスコース教育課程の充実	ビジネスコース授業科目の再検討	カリキュラム検討委員会及び担当者となる教員との話し合いで新科目新設になった。	A	ビジネスコースの学生全員に簿記3級を目指す意識づけを行う。 新設科目の充実を図る。 就職指導の合理化を図る。
合理的配慮を必要とする学生への対応	チューターがメインとなり対応する。情報は学生管理システムに記載して共有する。	事務職員の連携・協力の支えが大きかった。担当チューターのための負担が多すぎた。	B	今後も合理的配慮が必要な学生が増加することが見込まれるため、チューターのみならず、教職員全体での対応が必要である。 また、履修登録確認票を学生とチューターが共有し、適宜面談を実施し、欠席数等履修状況を確認する。
介護福祉士国家試験受験体制	全員が合格できるように補講授業を計画する	前期から授業の無い1校時を活用して授業を実施した。	A	新年度も前期から介護福祉士国家試験受験対策講座を担当教員で分担して実施する。
学生募集	高校訪問・進路ガイダンスを積極的に行い学生募集に結びつける。	オープンキャンパスも制限されている中、直接生徒と関わる時間を持つことが少なかった。	B	学生募集へ結びつくHPの活用方法を検討する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

簿記1級合格のための新設科目の検討を行う。合理的配慮が必要な学生への対応について、引き続き事務方と連携し、サポート体制を整えていく。

2021年度 自己点検・評価報告書

部署名 ③教育支援部

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. アクティブ・ラーニングの推進	・アクティブ・ラーニングを取り入れた授業計画立案・実施および実施報告の機会を設ける。	・今年度のアクティブ・ラーニングの型科目の開講割合はシラバスから抽出した結果58%の授業であった。	B	・ディプロマ・ポリシーの1つであるコミュニケーション力の習得に向けて、アクティブ・ラーニング型の授業の充実を図ることを目的に、教育事業部と連携しFD研修等を実施する。
2. 大学教育に必要な学習方法の習得等を目的とした初年次教育の実施	・1年次共通の授業のフレッシュマンゼミにおいて、初年次に必要と考えられる学習方法の習得の充実を図る。	・初年次に必要とされる基本的なレポートの書き方やプレゼンテーションの方法について、1年前期で習得できるようにフレッシュマンゼミの授業で取り組むことができた。	A	・今年度の授業評価を用いて初年次教育の内容についてさらに精査し、内容の充実を図る。
3. カリキュラム検討	・ビジネス関連科目の充実を図る。 ・科目・資格のスクラップビルドを検討する。	・ビジネスコースの科目の拡充を行った。 (金融リテラシーⅠ・Ⅱ、FP養成演習) ・2022年度入学性からの児童厚生2級指導員資格取得の廃止をした。	A	・カリキュラムの充実については、企業が求める人材に対応した構成になっているのか、学生の学習ニーズに応じた内容になっているのかを検証していく必要がある。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

コミュニケーション力の習得に向けて、FD研修（教育事業部）とも連携し、AL型の授業の充実を図る。就職先、学生の学習ニーズに応じたカリキュラムの検証を行う。

2021年度 自己点検・評価報告書

部署名 ④教育事業部

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1 高大連携	① 青森中央高校・青森商業高校合同授業 ② 下北地区の合同授業 ③ 中里高校の授業参加 ④ 青森明の星高校連携授業	① 高校クラスター発生の為中止 ② 同じくクラスター発生の為中止 ③ 今年度で閉校するため中里高校へ出前授業実施 ④ 実施予定 (2/14~2/17)	B	コロナ感染状況をみながら高校と連携していく。対面が不可である際にはズーム等を利用していく。
2 学内FD・SD	① 学内FD 実施 ② シェアリング実施 ③ SD 実施	① ・学内FD 週間を設定(録画) ・指定参観授業実施 ② ・指定参観授業に対するシェアリング実施(録画) ③ ・ロイロ研修会(非常勤含む) ・ズーム研修会(コース別)	A	全員が指定授業参観に参加することを徹底する。(不可時は録画視聴)
3. 共同FD	①青森中央短期大学・青森中央学院大学の共同FD 実施	① 5年連続実施(中短担当3/22 実施)	A	次年度は本学担当となるため早めに計画を立てる。コロナ感染状況によってはライブオン開催もあり得ることを予定しておく。

※評価=「達成:A」「概ね達成:B」「やや不十分:C」「不十分:D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

コロナ禍での高大連携の在り方が課題。5年目となる共同FDについては、今後も継続していく。

2021年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑤学生支援部

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 学友会活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による学友会行事の検討 ・サークル活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ということもあり、体育祭は学友会執行委員の話し合いをもとに、学生祭は全校でのアンケート結果や学友会執行委員の意見を集約し、中止とした。 ・クリスマスの集いに関しては、学友会執行委員との綿密な打ち合わせと準備をして実施したが、天候不順のためバス運行が中止となり、下北キャンパス生が参加できなかった。 ・今年度は9団体のサークルが活動することになった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き次年度もコロナの感染状況に応じて行事の開催の検討をしていく。 ・クリスマスの集いの開催日を12月の中旬に繰り上げて実施できるように次年度の日程を調整する。 ・次年度はサークル活動の維持ができるように学生への呼びかけを行っていききたい。
2. 学内環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活に関わるアンケート調査の実施と結果の開示 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学生を対象に「学生生活に関するアンケート」を前期末に実施し、調査結果を10月に公表することができた。しかしながら、その結果に伴い改善できたかどうかを評価するまでに至っておらず、各部署との連携への要望をお願いするには至らなかった。 ・自由記述について、直接的な表現をしているものがあり、部署によっては誤解を生じてしまう記述もあった。 ・実施後の反省として保健室の利用についての調査も必要との意見がでた。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果をもとに、どのような改善ができたかのかどうかまで、明らかにしていく体制づくりを次年度は整えていきたい。 ・Google フォームを活用したが原文のまま公表されてしまうため、紙媒体での調査に切り替えて実施をしたい。 ・アンケート内容の見直しを行い、保健室の利用についても調査を行う。
3. 課外教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・4月オリエンテーションの運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度のオリエンテーションの日程表は、担当者の入れ替わりがあり、直前での提示となってしまった。これにより日程表が見にくいなどの問題もあった。 ・レントゲン撮影に関しては、下北キャンパス生が不在のときに日程を組んでしまったため、煩雑になってしまった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度はなるべく早めに日程表を提示できるように、学科長と連携をしながら作成していききたい。 ・レントゲン撮影が煩雑にならないように、下北キャンパス生の動きに合わせて、オリエンテーション期間中にできるように検討をしたい。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

コロナ禍での行事の改善。学生生活に係るアンケートの結果を具体的に（保健室利用の要望等）改善していく。

2021年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑥入試広報センター

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 学生募集	<ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシー (AP) を専攻、コース毎とするよう改定する。 ・入学者数激減にもかかわらず、入試広報センターのメンバーが減となったことから、職員全員が共通理解を図る機会を設定し、危機感をもって学生募集活動に当たるようにする。 ・ホームページ (HP) をリニューアルするとともに SNS を活用した広報を増やす。 ・各専攻・コースが学生に働きかけ、広報活動につなげられるようサポートする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AP 改定は専攻毎となった。 ・高校訪問担当者全員を対象に、訪問時の持参資料、説明のポイント、留意点等について説明し共通理解をもった。 ・HP のリニューアルについて、年度内完成を目指した。また、OC の後にオンラインでの個別相談会を実施し、更には、随時のオンライン相談を開設した。 ・SNS が切っ掛けで、札幌や佐世保からの入学者があった。 ・保育専攻のビーナス活動をプロデュースし、広報をサポートした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・介護とビジネスが同じ AP になったが、違和感があり、高校生に伝わりにくいと考える。今後も別々にするよう提案していく。 ・本学の新 AP をはじめ、建学の精神、教育方針等が高校生や高校関係者により伝わるメッセージを発信する。 ・HP 刷新については、業者が青森中央短大と酷似した案しか出せずにデザイナーを別注するに至り、時間がかかったが、本学らしい個性を際立たせる。 ・SNS の中でも何に重点を置くかをマーケティングにより戦略を立てる。 ・介護やキャリアビジネスの広報もサポートする。
2. 少子化対策	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の 18 歳年齢人口が、20 年比で 24 年に 2000 人以上減、31 年には 3000 人以上減となることから、新規分野の開拓が必須である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明の星高校での単独学校説明会を要望したが実現しなかった。 ・明の星高校とのカリキュラムの連携を提案したが実現しなかった。 ・これまで実績のなかった高校にも積極的にアプローチすることができた。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・明の星高校との連携強化は本学の生き残りを左右するものと考え、管理職からのアプローチも含め実現させる。 ・所謂進学校や専門高校など、実績の乏しい高校及び、特に、減少傾向にある青森市内の高校との連携を更に強化する。
3. 新型コロナウイルス感染症対策	<ul style="list-style-type: none"> ・政府の方針に則り、柔軟に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入試当日、濃厚接触者の受験生が来た場合を想定し、試験実施や他の受験生と別の動線確保など万全の体制を構築した。 ・特待生選抜試験は、試験日を設けず、総合型 I 期及び学校推薦 (指定校) 試験の偏差値をもとに総合的に判断した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・文科省のガイドラインに沿ったコロナ対策を更に徹底する。 ・本試験の偏差値による特待生の選考については、コロナ感染症の状況により判断する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

コミュニティ福祉専攻のコース別の AP の検討が必要。明の星高校との単独学校説明会、カリキュラムの連携、本学への進学人数増が引き続き課題。

2021年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑦キャリア支援センター

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 「キャリアサポートⅠ・Ⅱ」の授業について	<ul style="list-style-type: none"> ・前期 (火) 4校時 「キャリアサポートⅡ」の授業計画 ・後期 (月) 4校時 「キャリアサポートⅠ」の授業計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を実施した。「キャリアサポートⅠ」にて配布した「キャリア支援ハンドブック」をもとにした授業を行った。 ・「キャリアサポートⅡ」では専攻・コースごとに模擬面接を行うなど実践的な指導を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリアサポートⅡ」の授業は通年での指導が必要なことから「通年」(15回)とする時間割編成を要望した ・「キャリア支援ハンドブック」の改訂
2. 新卒者激励会、合同就職説明会についての中止を含めた開催検討	<ul style="list-style-type: none"> ・5月、6月の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢を鑑み中止とした 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・東京における新卒者激励会の計画見直し。青森における新卒者激励会の充実をはかる ・合同就職説明会の充実をはかる
3. 求人票取り扱いの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・FAXが中心だった求人票受付をEメールとの併用に変更していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学ホームページの「問い合わせ」ページなどの修正作業を進めている 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・求人票閲覧の充実をはかる

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

卒業3年の追跡調査を行う。卒業生のニーズに沿う科目の検討、リカレント教育の充実につなげる。

2021年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑧地域連携センター

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 地域の発展を重層的に支える取組 ①中泊町との連携 ②浪打商店会との連携 ③地元町会との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業（小学校英語）の実施（計3回） ・定例役員会に出席し学生へ主体的に参加を呼びかける ・港町ねぶたへの参加・協力、認知症徘徊訓練事業（相馬町）など学生が協働する機会を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業は薄市、小泊、中里小学校で実施した。 ・浪打町会役員会へ参加し、今年度はコロナウイルス感染症のためイベントが中止となった。 ・港町ねぶたは協賛金での参加となった。認知症徘徊訓練もコロナウイルス感染症のため中止となった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業は、現地と連携しながら円滑な運営をしたい。 ・町会連携は感染状況を見ながら学生が安全に参加できるようにしたい。 ・リモート参加可能なイベント等があれば積極的に周知したい。
2. 青森商工会議所との連携 ①青森地域産官学連携懇談会の参加	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成雪花雪中塾や合同企業説明会への学生呼びかけ ・AOMORI6ix キャンパスガイド作成 ・意見交換会への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・リモート可能な講座の学生周知を行った。 ・意見交換会を通じて本学が連携協力できるものへの参加検討を行った。 	B	主にキャリアビジネスコース学生が対象の講座が多く、今後も周知し参加を促したい。
3. 青森創生人材育成・定着協議会との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・会議への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成に関する情報共有と地元定着に向けた活動の意見交換を行った。 	B	学生が主体的に参加・協力できるものへの積極的な案内を行いたい。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

引き続きリモートで参加可能なイベント等を積極的に周知し、参加を促していきたい。コロナ禍での実施の難しさがあるが、学生主体の地域活動への参加が課題。

2021年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑨総務課

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 会計業務	<ul style="list-style-type: none"> ・会計データの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の伝票をデータ化し、必要時の抽出、検索また予算管理に活用した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 予算管理の徹底
2. 管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ・変更した出勤簿管理の定着 ・労働環境の適正化 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の勤務時間を各自が記入したものを、月ごとに提出してもらい確認と承認を行っている。 ・昨年労働基準監督署から指摘を受けた事項の改善を行い、職場環境の整備に努めた。(衛生委員会の開催他) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 残業または土曜日出勤など個人別に記入の疑問点がでるため、出勤簿管理のマニュアルの作成を実施する。 ストレスチェックの受診者割合の増加。
3. 施設管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ボイラー故障、雨漏りなどの修繕箇所を計画的に修理していく。 ・新型コロナウイルス感染防止のための清掃（除菌）を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3号棟のはがれた外壁の一部の張り替え工事を行った。また、ジムナーズや研究室等の雨漏りの修理、ボイラーの修理・更新も順次行っている。 ・委託業者（清掃）と連携をとり、毎日除菌のための拭き掃除と除菌液補充、除菌シートの設置に努めた。また来客受付に非接触型体温計を設置した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校舎の老朽化による修理が増えているので、計画的に修理を行う。 ウイルス感染防止のための衛生管理（除菌）を継続する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

予算の適切な執行管理に努めていく。

2021年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑩教務課

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 履修等管理についての 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 履修登録等の事務処理作業の合理化を図り、確認作業等の迅速化とチェックの徹底を強化。 下北キャンパス学生の資格申請の手続きを円滑に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 履修登録に伴う事務処理作業を分担し、迅速に行うことで確認作業等の迅速化とチェックの徹底化を図り、学生の履修状況を把握することができた。 各専攻の担当教員と連携を図りながら、保育士資格申請などの資格申請手続きを円滑に行うことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、履修登録に伴う事務処理作業の段取りを良くし、チェック体制の強化を図る。 引き続き、各専攻の担当教員と連携を図りながら、資格申請の手続きなど円滑に行えるよう効率化を図る。
2. 授業対応の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍に伴う対応が速やかに行えるように各専攻や教育支援部などの各部署と連携を強化し、遂行できるように取り組む。 下北キャンパスにおける授業対応について、各部署との連携を図りながら遂行できるように取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育支援部と連携を図りながら、コロナ禍に伴う休講期間の授業対応について速やかに遂行することができた。 教育支援部や地域連携センター、下北キャンパス職員との連携を図りながら、授業対応を遂行することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる事態に速やかに対応できるように各部署との連携を保ち、教職協働を実践することで情報の共有化の強化を図る。 引き続き、教育支援部や地域連携センター、下北キャンパスとの連携を保ち、情報の共有化の強化を図る。
3. 文書管理についての 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 効率よく文書管理ができるように、文書処理に伴う事務の合理化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 文書処理に伴う事務の効率化を図るために常に情報を共有し、業務を分担することで遅延なく正確に文書処理を行うことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、文書処理に伴う事務の合理化を図るために、常に情報を共有し、事務処理全体の中で計画的に取り組む。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

引き続き専攻及び各部署との情報共有・連携を図り、速やかかつ計画的に業務を遂行していく。下北キャンパスとの情報共有・連携の一層の強化を図る。

2021年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑪学生課

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 奨学金事務作業	・学生への適切な指導	・学生支援機構奨学金については、説明会を設けることができたが、その他の奨学金については説明会を開く日程がとれず、掲示による募集や配付形式を取った。個別に対応することになったが、適切に対応できた。	A	・奨学金の募集に関しては掲示による募集が中心となっているので、学生の見落としが無いようにチューター等からの連絡も考慮に入れて配慮する。
2. 授業料等減免費交付金事務作業	・学生への適切な指導	・授業料等減免費交付金の申請業務については、掲示による募集を行い、窓口での個別対応を行った。	A	・奨学金と同様に掲示による募集が中心となっているので、学生の見落としが無いよう配慮する。
3. 日常的な学生支援	・コミュニケーションを通し、話しやすい環境づくり	・上記1. 2. 等を行うに当たり、最も力を入れた項目になる。原則として、学生とのコミュニケーションを主体としたが、下北キャンパスと直接コミュニケーションを図れる機会が限られるため不足気味となり、電話・メール・郵送などの手段も用いた。提出・入力のめちについては概ね守れた。	B	・継続・自己研鑽が必要な内容であるので、継続し努力する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

奨学金、減免等の学生への個別対応において、学生の連絡の見落としが無いようフォローするとともに、下北生を含め組織的・計画的なサポート体制の充実をはかる。

2021年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑫図書館

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 図書館利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・企画の充実 ・情報発信 ・図書館利用に関するアンケート調査の結果の開示 ・学生支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はブックハンティング、読書感想文コンクールを実施した。ブックハンティングに参加した学生が選書した図書の紹介としてPOPを作成し、図書館で展示した。 ・新入生対象のオリエンテーション、フレッシュマンゼミでは、図書館利用案内や図書検索を行い、授業外での学習向上を図った。 ・新着図書案内や図書館情報は掲示板にて発信した。 ・全学生を対象にアンケート調査を実施し、図書館利用に関する意見、要望を把握することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・企画の段階から学生の参画を視野に入れる。 ・図書館のホームページやブログによる情報発信を定期的に行う。 ・図書館利用を促進するために図書館単独でアンケート調査を実施し、課題を見つけ、改善策を検討する。
2. 教育・学生支援の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・授業担当者との連携による学修支援の協働体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業担当者から授業に関連する参考図書、指定図書の要望があり各コーナーを設けた。これにより図書館利用が促進された。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業担当者との連携を強化し、指定された図書資料の設置方法や学生への周知を工夫する。
3. 図書資料の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・図書資料の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書資料は専攻の図書構成の点検を実施し、不足分野の整備を行った。雑誌については購読の見直しを行った。 ・図書検索や閲覧をしやすいように館内の配架整理を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・選書については図書館と専攻との連携を図る。 ・図書資料の収納スペースの不足の解決を検討する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

全学生を対象に実施したアンケートの結果について、集約した意見や要望に対して具体的な改善を実行していく。各種企画についての学生・教職員への周知を強化する。

2021年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑬明の星学園生涯学習センター

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. センター講座	<ul style="list-style-type: none"> ・後期、「懐かしの歌を歌う」を開設する。 ・講座の周知を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「懐かしの歌を歌う」の開講を予定していたが、合唱による感染リスクが高いことから中止とした。 	/	<ul style="list-style-type: none"> ・「懐かしの歌を歌う」の講座は、コロナ禍においても感染リスクを低くして、実施できるように努める。 ・教員免許更新制廃止後、文科省から発表される教員の研修制度の内容を踏まえ、本学で開催できる講座について検討していく。
2. 教育カウンセラー養成講座及び教員免許状更新講習	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の講座・講習を計画通り実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の講座・講習を計画通り実施した。 		A
3. 介護福祉士実務者研修	<ul style="list-style-type: none"> ・「介護福祉士実務者研修」を開設する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「介護福祉士実務者研修」を計画通り実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「介護福祉士実務者研修」は、以前確認していたように、希望者が5名を下回ったときは、実施を見送ることを周知する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

コロナ禍で実現可能な講座や教員免許状更新講習に代わる講座の検討を行う。

2021年度 自己点検・評価報告書

部署名 ⑭青森明の星短期大学国際交流センター

今年度の計画(Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 各種留学・研修プログラムの提案及び実施	<ul style="list-style-type: none"> ・米国ハワイ州にある本学協定校のカピオラニ・コミュニティ・カレッジ (KCC) とのダブルデGREEプログラム (1+1プログラム) 及び短期留学プログラムの周知を図るとともに希望者に対しては、留学内容、諸経費、渡航手続き等の説明を行い、全面的なサポートを行う。 ・学生の希望に応じた語学研修プログラムを提案し、学生のニーズに応じたサポートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、すべての留学・海外研修が中止となった。 ・各種留学・研修の中止については、決定された時点で全学生に対して、口頭・掲示で周知した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの状況を鑑みながら、各種留学の周知・募集、サポート等について計画的に実施する。 ・KCC との1+1プログラム・短期英語集中プログラムについての情報 (学費、履修科目等) を時間に余裕を持って、わかりやすく説明する。 ・海外研修の保育施設での研修内容を精査する。
2. 青森・長春教育芸術文化交流協会 (青森長春会) の事業内容の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における役員会・総会・懇親会開催の可否を3役会議にて決定する。 ・活動内容や特別寄稿文等の掲載による魅力ある広報紙 (第21号) 作りを目指す。 ・奨学金支給対象の中国人学生を選考する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、総会等は、開催できなかったが、各種議案については、書面による決議を行い、その結果を全会員に周知した。 ・今年度は緊急食料支援として、青森市内の大学に通う全留学生に食料品を支給した。 ・広報紙には、食料支援関連、中国以外の留学生からの寄稿文、本学姉妹校学院長からの特別寄稿文などを掲載し、全会員及び関連部署等に送付した。 ・中国人留学生を面接により厳正に選考し、24万円の奨学金を支給した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、コロナ禍における留学生に対する支援を弾力的に検討・実施する。 ・奨学金支給対象の学生を各大学から1名ずつ推薦してもらい、複数の対象者の中から1名を選考するように見直す。

※評価=「達成:A」「概ね達成:B」「やや不十分:C」「不十分:D」

次年度に向けての重点課題・改善方法

コロナの感染状況を鑑みながら、各種留学の周知・募集、サポート等について計画的に実施していく。